

印西大師 番外 中・薬師堂（中集会所）

- 1 名称 (No.178/294)〔手引鏡：仲村〕〔資料館：薬師堂〕
- 2 場所 白井市中327-1 中集会所
 名内・東光院から道程約1,880m
 名内・野中から道程約930m
 GPS座標 35.81737121875066, 140.05418294938465
- 3 由緒
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。白井町石造物調査報告書(昭和62年3月)によると安政4年(1857年)のもの。堂外に中大師講解散記念「弘法大師之像」(平成17年12月吉日)が1体あり。
- 5 境内 大師堂のほか観音堂、中集会所・薬師堂、四国霊場八十八ヶ所順拝供養塔などあり。
- 6 写真 (2022.11撮影)



観音堂(左)と大師堂(右)



御大師様



大師堂立像と供養塔



中集会所・薬師堂



御大師様立像と供養塔



大師堂と供養塔

7 情報

(1) 大師講の解散

中大師講解散記念「弘法大師之像」(平成17年12月吉日)があった。下長殿・長栄堂の弘法大師像の建立と同様、白井大師講の解散に伴い、中地区の大師講も解散し、記念に建立したものである。(2022.11現地調査)

(2) 印西大師第18番の遷座

「印西八十八ヶ所手引鏡」に、「(表紙裏書・異筆) 十八同(番) 仲村 荒野 なぎのどう」との記載がある。また、印旛歴史民俗資料館の「印西大師順路図」には「第18番 荒野 凧の堂 白井の中へ遷座決まるものの遷座せず現在に至る」、「本番札所の協議をされたのは昭和十年代当

初と推察されます」との記載がある。ここでいう「仲村」及び「中」というのは、中・薬師堂のことだろうと思われる。石造物が多いことや立派な大師像が建立されていることから、昔から大師講に熱心に取組んできた集落に違いない。手引鏡の明治4年の段階では△印の番外札所にも出てこないのが、印西大師に加入したのはその後のことになる。明治38年（1904年）には白井大師講が創設され、中・薬師堂は第20番札所となった。大師講にたいへん熱心な集落であったため、印西大師においても番外ではなく本番札所としての扱いを望んでいたであろう。その願いが昭和10年代当初にかない、第18番が荒野から譲られることに決まったものの戦争などあったため遷座の話は立ち消えになってしまい、現在に至っていると考えられる。